

JSS による情報提供

火事の場合の危険を軽減させるために

- **煙探知機の取り付けと保守**
  - 煙探知機は出火の場合、避難するべきタイミングを教えてくれる。
  - 煙探知機は屋内の各階、特に睡眠する場所の近くに取り付ける。
  - 定期的に警報機の動作を確認し、製品説明書にしたがって使用しよう。
  - 弱ったないしは空になった電池は直ちに交換。
  - 電源を電力会社からの供給に頼っている警報機の場合、停電時には作動しないことを忘れないようにしよう。予備電池つき無停電装置が財産を火災から守ってくれる。
- **退避ルート作成と訓練**
  - 家内全員で避難計画を立て予行演習しよう。
  - 各部屋からの出口は2通り必要。
  - 屋外での集合場所、9-1-1通報が出来る場所をあらかじめ決めておこう。
  - 高層住宅では、火災時にはエレベーターは使用しない
- **暖房ヒーターの周囲には空間を**
  - 暖房ヒーターは、周囲の物品から1m以上離すこと
  - 外出時ないしは就寝時にはヒーターのスイッチを切断
    - 子供がヒーターに近づかないように
- **タバコは有害**
  - 屋外に喫煙場所を設け、大きくて深い灰皿を用意する。吸殻は水で消火を確認してからごみ捨てに。
  - 喫煙は火災および被害予防のために屋外で。
  - 喫煙後の就寝時には、喫煙者以外の目で、ソファーやクッションなどの陰で煙っている吸殻などがいないかを確認すること。
- **料理をするとき**
  - 料理をするときには火気に十分注意し、子供は離れさせよう。
  - たっぷりとした服装は避け、火のついたコンロなどの近くでは特に衣服への着火を注意。
  - 火気を使用中はその場を離れないこと。
  - もしナベに火がついたら、ナベにふたをし、火元を消すこと。
  - ナベの手は、内側に向けて。
- **マッチやライターは大人が扱おう**
  - マッチやライターは子供が触れない所に置こう。
  - 子供に、マッチやライターは大人だけが扱うものだと教えよう
- **安全な電気の使用**
  - もし電気器具から煙が出たり、焼けた臭いがしたら、すぐにコンセントを抜いて修理しよう。
  - 家中の配線や接続コードを検査し、ひびやほつれのあるものは交換しよう

- コンセントに過剰電流は流さず、又延長コードはカーペットの下に入れないようにしよう。
- ヒューズボックスを改造したり、適正以外のヒューズの使用は避けよう。
- **やけどは冷やせ**
  - もしやけどをした人がいたら、すぐに冷たい水を5～10分流しかけ、痛みを和らげよう。
  - 水ぶくれやこげがある場合、すぐに医者に見せよう
- **生まれ、床に這え、転がれ**
  - 着物に火がついた場合、走ってはいけない。
  - その場に生まれ。
  - 静かにその場に横になって、顔を手で覆い、顔と肺の被害を防げ。
  - 衣服の炎が治まるまで、その場で転がれ
- **低くなって煙の下を這って進め**
  - 煙に巻かれた場合、きれいな空気は床に近いところにある。
  - 手とひざをついて近くの出口まで這え。
- **停電**
  - 停電しても、炎が出る暖房機ないしは炭コンロを屋内で使用しない。
  - ガス暖房機は屋内で使わない。
  - 移動式発電機を使う場合、家事用の器具は、専門家が配線した場合以外は接続しないこと。発電機を家庭内配線に接続しないこと。
  - 発電機は排気ガスが屋内に入らない屋外に設置すること

- 今すぐに煙探知機を検査すること。もし電池駆動ではない場合、(停電時に作動させるため)予備電池装着の煙探知機をついた装備しよう

## 火事になったら 9-1-1.

### JSS 説明

報道によるとオンタリオ州では、2008年の11月から09年1月いっぱい間に火事によって29人が亡くなったという。

歳末はクリスマスなど催しが多い時期であると同時に、季節柄火を使うことが多く、火事の多発期でもある。

その辺りが意識されたのか、報道で注意が喚起され、トロント市のウェブサイトに詳細な注意点が掲出されている。注意事項はきわめて常識的な事項が多いが、普段余り気がつかないものも含まれているので訳出した。

たとえば住宅各階毎の煙探知機装備は州の法律が定める規則である。